

第2回認定スポーツ・コンプライアンス・オフィサー(SCO) 事例検討会報告書



一般社団法人 スポーツ・コンプライアンス教育振興機構

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-24-16 平和ビル 7F

Tel: 03-5521-2205 / Fax: 03-3581-2210 / E-mail: info@spo-com.org / HP: http://www.spo-com.org

日 時	2020（令和2）年11月14日（土）
運 営 本 部	学士会館 203 号室（オペレーション本部 / 東京都千代田区）オンライン開催
参 加 者	認定 SCO19 名 / 同行者 3 名
講 師 等	外部講師 1 名（ヒューマン・ライツ・ウォッチ 土井 香苗） 事例発表 2 名（認定 SCO 薄井 知道 / 伊藤 彰）
関 係 者	当機構 理事 7 名 （一社）日本車いすラグビー連盟 3 名 / （株）ユーミックス 1 名 運営補助（機器操作等）5 名 / 事務局 2 名
目 的	各 SCO が身近に見聞したり、実際に体験したスポーツのコンプライアンス違反事例について報告し、それを素材に討論を行い、事例分析と今後のコンプライアンス教育の方法・内容・在り方を検討すると共に、SCO 同士及び当機構役職員との交流を図る。

開催概要

「第2回スポーツ・コンプライアンス・オフィサー（SCO）事例検討会」が、2020年11月14日（土）に、スポーツ・コンプライアンス教育振興機構認定 SCO が 19 名参加して開催された。当機構代表理事 武藤 芳照氏の開会挨拶に引き続き、検討会は 3 部構成で進行した。

開会宣言・開会挨拶 13:00～13:06

【司会進行】理事 吉田 真由美



【開会挨拶】代表理事 武藤 芳照



【第1部】講演「スポーツ界の子どもの虐待の実態と課題」 13:07～13:38

指定発言 13:38～13:53 / 質疑応答 13:53～14:20

【外部講師】土井 香苗 弁護士



国際人権団体ヒューマン・ライツ・ウォッチ (HRW)がスポーツ界の子どもの虐待の実態をリサーチした報告書『数えきれないほど叩かれて』をベースに、土井 香苗氏 (ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表 / 弁護士)による講演が行われた。五輪・パラ代表経験者など 800 人以上のインタビューでの調査などをもとに、日本のスポーツ界をめぐる暴力問題に踏み込んだこの報告書が、今年7月に発表された当初もスポーツや教育の現場

などで大きな反響を呼んだが、今回の土井氏の講演にも迫真の事情は凝縮されていた。スポーツ現場での子どもへの虐待や体罰が蔓延する深刻な事例報告、そのトラブル対処や再発防止への現在の課題や問題点、今後の施策への提言（日本政府にスポーツにおける虐待問題を調査や処分する権限を持つ独立機関「日本セーフスポーツ・センター」（仮称）の設立を求める）などが詳細に披露された。

【指定発言】理事 工藤 保子

指定発言として当機構理事 工藤 保子氏（大東文化大学准教授）が、この課題に対するスポーツ庁など関連省庁や競技団体の動向などについてサポートした。土井氏の講演と工藤理事の補足を総合すると……、



*7 年前に表面化した種々のスポーツ現場での暴力・パワハラ指導問題から、JOC や全国高体連などが「暴力行為根絶宣言」など、各競技団体で対策を取っているものの、トップレベルのスポーツや学校部活動などでも依然として虐待の実態が根強く残る。

*子どもへの虐待事例は通報を躊躇うことが多いと言われ、問題の深刻さを正確に把握しにくい。

*責任の追及についても、然るべき基準がないに等しい。

*対応が競技団体任せにされているような、再発防止への課題や問題点が山積している。

*日本のスポーツ界では、この種のトラブルで指導者が責任を問われたケースは希少。

指導者から子どもが被る体罰、虐待、パワハラ、セクハラなど、行き過ぎた指導は今後も絶たない現という深刻なテーマであることを、参加者一同が強く再認識させられた。

【第2部】事例発表 / 質疑応答 14:35～16:00

薄井 知道 SCO (14:35～15:23)



伊藤 彰 SCO (15:24～16:00)



薄井 知道 氏（八戸赤十字病院 整形外科長＝運動部指導者の部員へのハラスメントについて）と伊藤 彰 氏（学校法人 山梨学院大学＝コロナ禍の運動部指導について）の両 SCO がプレゼンテーションを行った。この第2部で特に薄井氏が発表した内容では、極めて陰湿なハラスメントを過剰なまでに繰り返した運動部指導教諭に相応の処分が下り、ハラスメントを受けた生徒は深い心の傷に苦しむという、双方にとって大変不幸な結末に至る事例であり、今後の教訓とするにしてもかなり身につまされるものであった。

【第3部】総合自由討議 16:15～17:04

参加者が3班に分かれ、『大学スポーツと大麻』をめぐる連帯責任」「女性アスリートの性的画像の扱われ方」「スポーツ現場での虐待や体罰」の其々のテーマで総合自由討議が行われた。いずれのテーマも解決が容易ではないものだけに、SCO から数々の闊達な意見が交わされた。各テーマの討議での検討内容の概要は、以下の通り。

A グループ



【テーマ】スポーツと連帯責任

【座 長】理事/事務局長 櫻井 康史

「『大学スポーツと大麻』をめぐる連帯責任」＝東海大学野球部の大麻事件での例を中心に議論された。「連帯責任は抑止力になるが、隠蔽の負の面もある」「個人に責任を負わせると学生の出場機会は教育の機会でもあるので、それを奪うことにもなりかねない」「中々結論は出ないが、継続的に議論することが大切」

B グループ



【テーマ】スポーツ界におけるセクシャルハラスメント
(特に女性アスリートの性的画像問題)

【座 長】業務執行理事 増島 みどり

「女性アスリートの性的画像の扱われ方」＝「この件で行われたスポーツ庁の記者会見の写真（男性のみが写っている）を見て、女性を守らなければならない記者会見に、女性が居ないことへの違和感を共有した」「卑劣なことが起こって現場の女性アスリートが困っていることも認識」「ウェアの問題も大きく、また直接撮っていなくても加工される現実もある」「事前の対応について継続的に取り組む必要、また倫理観を啓発する必要もある」「昨今注目されてきた問題として、SCO としてしっかり認識する必要があると感じた」

C グループ



【テーマ】スポーツ界の子どもの虐待

【座 長】副代表理事 上柳 敏郎

「スポーツにおける虐待」＝「子どもの虐待の問題は、解決しても子ども自身がスポーツから退場してしまう現状がある」「加害者は再度行う可能性もある」「今後、制度的な面の整備が必要」

【閉会挨拶】副代表理事 上柳 敏郎 17:05～17:07



今回の開催はコロナ禍のためリモートで行うという制約された状況にもかかわらず、当機構代表理事 武藤芳照氏は「SCO の皆さんの意識の高さと思いの確かさを再確認できた良い会」と振り返り、今後の当機構の活動へ向けても意義深い手応えの検討会となった。

報告者 / スポーツ・コンプライアンス・オフィサー (SCO) 椎野 茂

写真 / スポーツ・コンプライアンス・オフィサー (SCO) 伊藤 彰・理事 工藤 保子